



## 日 新

池 田 悦 治\*

人類の宿命は「永遠の未来挑戦」にあると思う。そのお蔭で文化は日に新らしく、われわれはここに生がいを感じる。

わたくしは曾って日本経済新聞のコラムに「日新」と言う随想を掲げたが、その真意は、変転極りない現代の技術に取り組む人々の姿勢に望むところがあったからだ。

新年の挨拶に代えてその一部をご披露する。なお会員各位のご活躍を祈って止まない。

鳥羽から宇治山田までのドライブで少々無理な速度を要求したわたくしは、絶妙の運転をしながら悠揚と答えた彼の話に感動した。

わたくしが突然に問いかけたのは、大分急速度が出ているなと感じられた区間でのことである。日常に速度規制の標示が整っている道路を利用しているわたくしは、高速度には比較的馴れている。ところがその日のドライブには、全く速度制限標など見当らない数区間があって、この区間で彼が出したスピードを気にしたわたくしは、安全な運転をしようと申し出た。そのとき彼は静かに言うのである。

「わたくしは20数年の運転歴をもっています。その間15年の無事故表彰を受けました。この表示を見て下さい」前面硝子の上方隅を

指差し更につづけて「わたくしはいつも交通規則を守っています。速度には特に気をつかいます。ここでは一般の規則と車の機能と自分の技術を組合わせた適当な条件スピードで走ります。絶対にご安心下さい」と。

その上わたくしを感心させたのは、「この道路は幾百回通ったか覚えませんが、走る毎にいつも初めての道だと思って運転しますよ。天候は変わるし、出てくる犬や猫、それに対面する車の状態も一瞬として同じではありませんからネ」と言って結んだ語調である。わたくしも、たった一度しか生れてこない人生を悔いが残らぬようと努力しているが、努力というのは彼のような日常を言うのだなと、日々の生活を見直したのである。

ときにけん命の努力をすることはできても努力が性となるまでは大変なことだと思う。

確かニューヨークタイムス社の玄関に掲げられていると聞く「日毎に新鮮な発足があり、朝毎に新しい世界が生れる」ウーズレイの詩を好んで口にするわたくしであるけれども真に新しい毎朝を迎えることは難く、昨日の延長を暮らそうとする。月曜から、一日からではいけない。朝毎に新しい人生を発足するようになりたいものだ。彼のように。

\*池田悦治 (Etuji IKEDA), 社生産技術振興協会 理事長